ヘルニコアを用いた化学的髄核融解術（椎間板内酵素注入療法）

―腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療の選択肢―

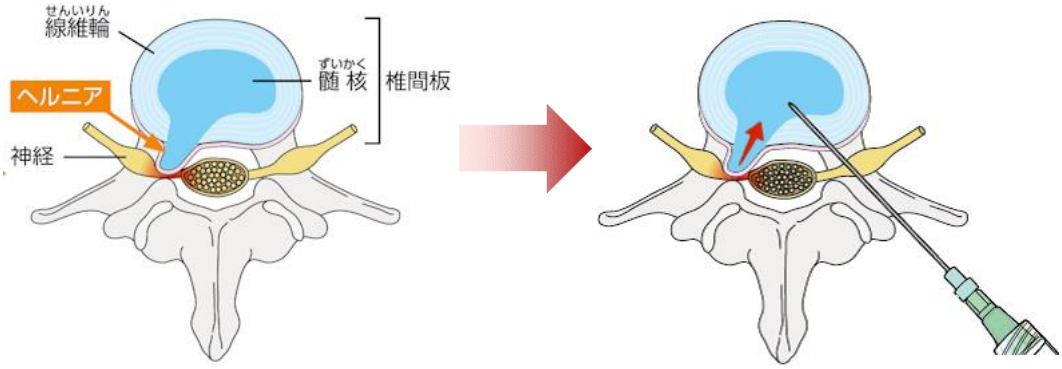
1.	化学的髄核融解術とは
2.	ヘルニコアの概要
3.	化学的髄核融解術（ヘルニコア投与）の流れ
4.	入院から退院までの流れ
5.	化学的髄核融解術の注意点
6.	問い合わせ先

1. 化学的髄核融解術とは

化学的髄核融解術は、椎間板内に酵素を含んだ薬剤を直接注射して、ヘルニアによる神経の圧迫を弱める方法です。「椎間板内酵素注入療法」とも呼ばれ、現在、日本では「ヘルニコア」のみが腰椎椎間板ヘルニアの化学的髄核融解術を行う薬剤として認められています。

2. ヘルニコアの概要

ヘルニコアの有効成分であるコンドリアーゼは、髄核の保水成分を分解する酵素です。
そもそも椎間板は背骨と背骨の間に挟まれ、クッションのような働きをしています。その中心に位置するのが髄核ですが、この髄核が何らかの理由によって外に飛び出し、神経を圧迫するのが腰椎椎間板ヘルニアです。髄核は保水性分であるプロテオグリカンを多く含み、水分を含んで膨らんだ状態にあります。これは、飛び出して神経を圧迫しているヘルニアの髄核でも同じです。
この髄核に適切な量のヘルニコアを注入すると、コンドリアーゼによって髄核内の保水成分が分解され、水分による膨らみが適度にやわらぎます。その結果、神経への圧迫が改善し、痛みやしびれが軽減すると考えられています。



3. 化学的髄核融解術（ヘルニコア投与）の流れ

① レントゲン台に横になり体の位置を調整します。

X 線でヘルニアのある椎間板を確認しながら、針を刺す場所を決めます。

② 針を刺す位置を消毒し、局所麻酔を行います。

③ ヘルニアのある椎間板内に針を刺し、ヘルニコアを注射します。

④ 病棟に戻り、しばらく安静にします。

薬による副作用がないかなどの確認をします。

＊椎間板の位置にもよりますが、約 30 分で終了します。

＊オペ室またはアンギオ室にて行います。

4. ヘルニコア投与決定から退院までの流れ

当院では基本的に 2 泊 3 日でヘルニコアの投与を行っています。以下の流れと異なるケースもあります。詳しくは主治医にお尋ねください。

外来受診

・X 線や MRI 画像よりヘルニコアの適応があるか判定します。

・ヘルニコア適応となった場合、医師より詳細な説明を受けます。

・手術日を決め、入院前手続きを行います。

入院 1 日目（入院）

・寝巻に着替え、ヘルニコア投与の詳細説明、注意点、流れなどの説明を受けます。

入院 2 日目（投与日）

・病室にて注射・点滴などの準備を行い、手術室またはアンギオ室に移動します。

・ヘルニコア投与を受けます（30 分ほど）。

・投与終了後は血圧などを測定後、病室に戻ります。
・帰室後 30 分は安静ですが、それ以降はフリーとなります。
＊投与当日は入浴を控えていただきます

入院 3 日目（退院）

・

投与 2 週間後外来受診

・医師からの問診、MRI 画像検査を行います。

投与 3 か月後外来受診

・医師からの問診、MRI 画像検査を行います。

5. 化学的髄核融解術の注意点

・薬による以下のようなアナフィラキシーが発現する可能性があります。アナフィラキシーとはアレルギー反応の 1 つで、短時間に全身性にアレルギー症状が出る反応です。

皮膚症状　皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑・皮膚の発赤など

呼吸器症状　声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、唇のはれ、息苦しさ、呼吸困難など

消火器症状　腹痛、吐き気など　　視覚症状　視野がせまくなるなど

・過去にヘルニコアによる治療を受けた方は再度ヘルニコアの治療を受けることはできません。
・以下のような患者さんはヘルニコア治療受けられない可能性があります。主治医とよく相談してください。

①アレルギー体質の方
②過去に「腰椎不安定性」の疑いがあると医師から言われたことがある方
③変形性脊椎症、脊椎すべり症、脊柱管狭窄症などヘルニコア以外の脊椎疾患のある方
④骨粗しょう症、関節リウマチのある方
⑤妊娠中の方、妊娠している可能性のある方、授乳中の方

6. 問合わせ先

東京医科大学整形外科
電話 03-3342-6111（代表） 内線 3280.3281（整形外科外来受付）